

第7次美浦村総合計画後期基本計画（案）に対する意見と村の考え方

○募集期間 令和7年2月18日（火）から令和7年3月10日（月）まで

○意見提出者数 1人

○意見件数 13件

No.	意見の内容	村の考え方
<b>第7次美浦村総合計画</b>		
1	<p>序 第1章 計画の位置づけ 2 計画の構成と期間</p> <p>(1)計画の構成が2回繰り返されている。 (2)計画に期間ではないでしょうか？</p>	<p>ご指摘の通り、下段の「(1)計画の構成」を「(2)計画に期間」に修正いたします。</p> <p>(計画の修正有り)</p>
2	<p>序 第1章 計画の位置づけ 2 計画の構成と期間</p> <p>「総合計画は、美浦村におけるまちづくりの最上位に位置づけられる計画であり、「基本構想」「重点戦略」「基本計画」「実施計画」で構成されます」とありますが、その下のピラミット型の図の中には、「重点戦略」がありません。「重点戦略」は、どこに位置づけられるのでしょうか。</p> <p>P34にある図を見ると「前期基本計画」は「後期基本計画」に修正が必要かと思えます。</p> <p>オレンジ色で下から上に向かう矢印があり、「基本計画」が実現すると「重点戦略」につながるといった構造になっているようにうかがえますが、P35には、「美浦村総合戦略は基本計画における重点戦略として位置づけられることとなります」とありますので、「基本計画」の中で、特に優先的に取り組むべき事項が、「重点戦略」として抽出されている（あるいは、「重点戦略」が「基本計画」より優位にある？）ようにも読めます。両者の位置づけは、各事業・取組の優先度にかかわることですので、序論のなかの図・記述を修正あるいは加筆し、「重点戦略」と「基本計画」の関係をより明確に示していただければと存じます。</p>	<p>重点戦略については、まち・ひと・しごと創生法に基づく「第2次まち・ひと・しごと創生総合戦略」としての役割を有しますが、同時に総合計画の重点項目の役割を持ち、美浦村のリーディングプロジェクトとして、優先的に事業を進めていくための計画としての位置づけをしています。</p> <p>ご意見のとおり、(1)計画の構成の図中に「重点戦略」の位置を明示いたします。</p> <p>(計画の修正有り)</p>
3	<p>序 第2章 計画策定の背景 1 社会環境の変化（時代潮流）</p> <p>「計画策定の背景」の1.のタイトルは、「社会環境の変化（時代潮流）」とありますが、(1)から(3)とは異なり、(4)から(6)の記述には、時代潮流のみならず、目標（目指す方向性？）が混在しています。ここは客観的な視点から本計画の根拠となる背景（事実）のみを綴る項目ではないでしょうか。タイトルも、(3)は、「少子化の進展」、(4)は「収入財源の減少」、(5)は、「公共施設等の利用状況の変化」、(6)は、「地域間競争の激化」など、社会環境の変化を表す表現にするのが適切ではないでしょうか。</p>	<p>ご意見のとおり、社会環境の変化（時代潮流）については、時代背景や社会の動き、傾向など、計画の根拠となる背景の記載が必要と考えます。</p> <p>「(3) 子育て世代に対する支援」を「(3) 少子化の進展」に修正いたします。</p> <p>「(4) 計画的な行財政運営の確立」を「(4) 地方財政状況の深刻化」に変更し、文末を「最小の経費で最大の効果が得られる、健全で持続可能な財政運営が求められています。」に修正いたします。</p> <p>(5)については、文言の修正は行わず、各段落の文末を修正いたします。</p> <p>「(6)「美浦っていいな」の追求」を「(6) 地域間競争の激化」に修正し、文末を「を推進していく必要があります。」に修正いたします。</p> <p>(計画の修正有り)</p>
4	<p>序 第3章 村民の意向調査</p> <p>第3章「村民の意向把握」に関して、前期計画でも同様でしたが、なぜ中学生がいる世帯のみがアンケート調査の対象とされているのでしょうか。美浦村の令和2年の世帯数は、5,864世帯です(P7)。今次調査対象となった中学生がいる世帯数は、252世帯 (P10)で、全世帯数の5%にも満たない数です。こうした調査の結果でもって、「村民」の意向として、論じられることには、違和感をおぼえます。このことは、P1の下から3行目「村民の多様な声や要請に対応した」という記述とも矛盾するように思われます。今次計画においては、「村民（中学生がいる世帯を対象）の意向把握」などと修正することを提案いたします。また、</p>	<p>ご意見のとおり、「第3章村民の意向調査」を「第3章村民（中学生がいる世帯を対象）の意向調査」に修正いたします</p> <p>中学生がいる世帯にアンケートを行っている趣旨として、基本構想の第3章将来指標の2において、村を愛する誇り指標の中で、「美浦村好きだと答えた中学生」の割合を指標としているため、毎年アンケートを行っています。</p> <p>村民の意識調査には、広く意見聴取する必要があると認識しております。今後、村民を対象にしたアンケートの実施やワークショップなどを活用し、幅広い層の村民からの意見を把握できるよう努めてまいります。</p>

	今後の計画策定においては、より幅広い層からの意向を把握できるような方法をご検討いただければと存じます。	(計画の修正有り)
5	重点戦略 第2章 重点戦略の個別プログラム 基本目標1 見たい・訪れたい・体験したい美浦づくり 数値目標「滞在人口(平日・休日)14時」に関して、前期計画時の現況値は、令和元(2019)年度で、「平日12,295人/年、休日11,127人/年(平成30(2018)年実績)」(前期計画P56)となっています。後期計画では、現況値は、令和5(2023)年度ですが、値は前期計画時と同じで、「平日12,295人/年、休日11,127人/年」となっています。全く同じ値だったのでしょくか?また、後期計画での目標値も同数値となっていますが、重点戦略として取組むのであれば、現況値より高い数値を目標値に設定し、滞在人口の増加に資する事業を実施していただければと存じます。	ご指摘のとおり、滞在人口の増加に資する事業は大変重要な施策と認識しております。現況値を「平日11,543人/年、休日10,325人/年」目標値を「平日12,500人/年、休日11,500人/年」に修正いたします。  (計画の修正有り)
6	重点戦略 第2章 重点戦略の個別プログラム 基本目標3 住み続けたい美浦づくり 基本的方向3-2 夢を見つけ、夢を叶える環境～美浦だから育める～ 「Uターン等に関する取組を積極的に進めるなど」とありますが、P55の具体的事業では、前期計画では記載されていた「事業No4 美浦UIJターン事業」(前期計画P74)が削除されています。施策3-2-③「ずっと住みたい・将来戻ってきたいと思える環境をつくる」は、P10で示されているアンケート結果(美浦村から転出したい人の割合が増加していること)を鑑みると、早急に取組む必要がある施策かと思われます。アンケート、結果も踏まえ、本施策にかかる事業の充実を図っていただければと存じます。	村内で育った子供たちが将来的に帰村するための土壌づくりや、村内企業と連携した就職先紹介の他、移住により農業従事を希望される方に対し関係機関と連携し相談を受けているが、現状において前期計画に記載の内容に係る具体的な事業を実施するのが困難と判断し削除いたしました。 理念としては継続して持ち、具体的事業内容を検討していきます。  (計画の修正無し)
7	後期基本計画 第3編全体に関して、「推進指標」は、どのような基準で選定されているのでしょうか。例えば、1-1土地利用に関しては、施策が4つあり、各施策に取組が2つずつ挙げられていますが(P58～P60)、推進指標(P61)は2つしかありません。推進指標に直接寄与する取組が優先度の高い取組になるのでしょうか。	第3編の「推進指標」について、選定基準は特に設けておりません。優先度につきましては、お見込のとおり推進指標に直接寄与する取組が優先度の高い取組となっております。  (計画書の修正無し)
8	後期基本計画 1-1土地利用 施策4 取組2 「利活用決定までは、これまでどおり施設の開放を行います」とありますが、すべてが「これまでどおり」というのは、現実的でないように思われます。具体的にはどのような場合において、「これまでどおり」開放されるのでしょうか。	ご意見のとおり「利活用決定までは、」の後に「体育館、屋外運動場については、地域住民の活動の場として、」を追加いたします。  (計画書の修正有り)
9	後期基本計画 2-2学校教育 施策2 学校教育環境・施設・設備の充実 推進指標では、ALTと関連する指標として、「英語教育及び国際理解教育の推進に係るALT(外国語指導助手)の配置」(1校あたりのALTの人数)が設定されています。P74の施策1の取組1では、「幼保小中一貫した段階的英語教育の実践とALT(外国語指導助手)との連携強化を図る」とあり、前期計画での「ALT(外	幼保小中一貫した段階的英語教育を実践するため、次年度よりALT(外国語指導助手)の配置人員数を7人といたしました。令和8年度以降、同様の環境を維持し、英語教育を推進していくことが必要と考えます。 推進指標につきまして、指標名の「配置」の後に「人員数」を追加し、現況値を「2.5人」、将来値を「7人」に修正いたします。

	<p>国語指導助手)による英語教育及び国際理解教育の推進」(前期計画P99)」から、文言が変更されています。このことから、前期計画期間とは異なり、後期計画期間では、ALTとの連携の強化に取り組むことが分かります。よって、指標としては、連携の実績あるいは連携による成果を示す指標を設定することがより適切であると思われます。ご検討いただければと存じます。(なお、現行の指標は、2025年度からの小学校統合を鑑みると、令和5年度は小中学校4校X0.5人で計2人、令和11年度は小中学校2校X1人で計2人となり、村全体では、ALTの人数の増減はなく、どのような取組の成果として、この数値目標を示しているのかが不明瞭に思われます。)</p>	<p>(計画書の修正有り)</p>
<p>10</p>	<p>後期基本計画 第3章 村民が尊厳を持って豊かに暮らせる村づくり 3-1 生涯学習・生きがいつくり 施策3 生涯学習施設の整備 「中央公民館図書室の蔵書充実」とありますが、P87の推進指標「中央公民館図書室蔵書冊数」の将来値は現況値より少なくなっています(現況値58,195冊、将来値56,000冊)。前期計画でも、将来値(令和6年)は、56,000冊とし、計画策定時(令和元年)の現況値(57,735冊)より、少ない将来値を設定していましたが(前期計画P113)、実際には、令和5年時点で58,195冊と増加しています。増加は、取組2の「蔵書充実」やP85の施策1の取組1にある「読書意欲の向上」とも合致し、好ましいことだと考えますが、現況より少ない冊数を将来値として設定していることにはどのような意図があるのでしょうか。</p>	<p>公民館図書室の運営において、将来値である蔵書冊数は公民館図書室の書架に対する収納可能上限冊数としており、現在は蔵書数が収納可能上限冊数を超過している状況となっております。利用者が入れない閉架書庫(本の倉庫)では棚に並べ切れない本が横に積まれる等しており、蔵書を適正な数に調整する必要があります。今後の方針として、以下の2点を中心に取り組んでいきます。 1. 超過している本の整理 2. 古い本の更新・買い替え 今後ともより多くの方々にとって利用しやすい図書室を目指して努めてまいりますので、何卒ご理解とご協力をお願い申し上げます。</p> <p>(計画書の修正無し)</p>
<p>11</p>	<p>後期基本計画 第5章 個性と活力にあふれる村づくり 3-2 地域振興・産業振興 施策1 広域誘客の推進 「陸平貝塚を生かした歴史・伝統文化をゆっくり巡って過ごせる観光ルートの構築」とありますが、陸平貝塚のみならず、鹿島海軍航空隊跡(大山湖畔公園)も、重要な観光拠点としての機能が期待されていると思われれます。よって、「陸平貝塚や鹿島海軍航空隊跡(大山湖畔公園)などを生かした・・・」と加筆することを提案いたします。</p>	<p>鹿島海軍航空隊跡(大山湖畔公園)は、本村の重要な観光資源と考えます。ご意見を踏まえて、「陸平貝塚」の後に「鹿島海軍航空隊跡(大山湖畔公園)」を追加いたします。</p> <p>(計画書の修正有り)</p>
<p>12</p>	<p>後期基本計画 第6章 みんなと一体となって進める個性と活力にあふれる村づくり 6-1 コミュニティ・交流活動 施策2 国際交流の推進 取組2 「多様な文化や価値観に触れる機会の提供を図ります」とありますが、具体的な内容は、「美浦村国際交流協会の活動の支援」のみとなっております。日本国内の在留外国人数がますます増加している昨今、各基礎自治体においては、多文化共生に向けた取組みの実践が求められています。村内の外国人住民数も634人(2024年6月末、出入国在留管理庁『在留外国人統計J』)となり、人口の5%に近づいてきています。このようななか、村内でも多様な文化や価値観に触れる機会が増えてきていますが、今後、外国人と日本人が協働して地域をつくっていくためには、交流する機会を積極的に設け、互いをより知ることが重要となってきます。よって、取組2に、「村内在住外国人との交流機会の創出と交流事業の推進」などの文言を加えることを提案いたします。美浦村国際交流協会だけに頼って、上記を実施することには限界があるとする</p>	<p>ご意見のとおり、国籍や民族などの異なる人々が、お互いの文化の違いを認め、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の一員として共生していくには、多文化共生の意識啓発や、日本人住民と外国人住民との交流の場をつくる必要があります。</p> <p>取組2の「美浦村国際交流協会」を「美浦村国際交流協会等」に修正します。 取組2に「村内在住外国人との交流機会の創出と交流事業の推進」を追加いたします。</p> <p>(計画書の修正有り)</p>

	<p>ため、「美浦村国際交流協会の活動の支援」と分けて記載することを提案いたします。</p>	
<p>13</p>	<p>後期基本計画 第6章 みんなと一体となって進める個性と活力にあふれる村づくり  6-1 コミュニティ・交流活動  推進指標「グローバル社会に対応した人材育成のための取組」は、現況値は0回／年、将来値は1回／年と  なっていますが、P117の施策2の取組のなかで、前期計画には含まれていなかった新たな取組は予定され  ていないように思われます。施策2のどの取組がここでの将来値の1回／年に繋がるのでしょうか。</p>	<p>施策2の取組1、「台北市立敦化中学校招聘事業の推進」が、指標の取組となります。  なお、令和元年を最後に、台北市立敦化中学校との交流が途絶えていることから、交流の  再開に取り組むとともに、新たな交流先の選定の検討もします。</p> <p>(計画書の修正無し)</p>